

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、小中高校が一斉休校となったり、繁華街も観光地も人出が少なく閑散としている様子がテレビで連日、放映されています。又、スポーツの試合やコンサート、展覧会などのイベントの延期や中止、規模縮小の動きも相次ぎ、毎日が不安で落ち着きません。

私の家のことをいうと、小六の孫、中三の孫の卒業式が各々なくなりました。その後の謝恩会で踊るということで、仲良しが何日も集まって練習していた出し物のダンスも勿論、できなくなりました。お寺の方の御法事も、欠席者が多く、その後の会食をキャンセルしたお宅もありました。

今後、時間の経過と共に、感染力や症状の



夜半のあらしに散る花の

もろきは人の命なり  
という一節があります。

この世の全てのものは刹那刹那に移り変わっています。人の命もまたしかり。誰もが年をとり、病になり、必ず最後が訪れます。人の寿命は誰にもわかりません。だからこそ、早く「彼岸」に到る必要があるのです。彼岸に到る六つの実践方法（六波羅蜜）があります。

布施—お互いに施し合う やさしい心  
持戒—きまりを守って仲良くする心  
忍辱—苦勞を乗り切る辛棒強い心  
精進—あきらめないで がんばる心  
禅定—落ち着いた 静かな心  
智慧—片寄らない、とらわれない、こた

わらない大きな心

これらは、いずれも私共の平生の生活にあつて、欠けているものといえましょう。

特徴なども解明され、対応薬も出来れば、終息に迎うのでしようが、それまでの我慢が強いられます。一日も早く、その日の来ることを祈りたいものです。



彼岸とは

春のお彼岸とは、春分を中日とし、前後三日を合わせた七日間をいいます。悩み、苦しみの多い此の岸（此岸）から、穏やかで安らかな理想の彼岸（彼岸）に到ることです、ですから彼岸の一週間は「自分勝手な生き方をしていないだろうか」「人に対して思いやりの心があつたらうか」と、「彼岸」の世界に到るために、心静かに自らを省みる期間といえます。

梅花流詠讃歌の「無常御和讃」に

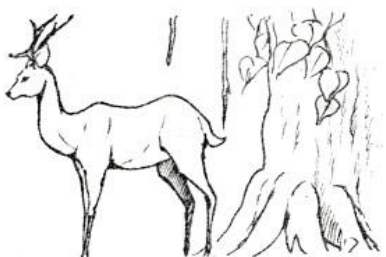
昨日の人は 今日ではなく  
合えば別るる世のならい

今日からみれば、お話しにならなかつた程、貧しかった昔、私達の祖先は、生活を切り詰めて寺を建てて菩提所とし、自らの心のより所とすると共に、祖先の安らぎの場としました。

それでも足りない気持ちから家の中にも仏壇をおまつりしたのです。それなのに、菩提所にお参りしないのみか、家の中の仏壇にさえ、手を合わせようとしないう人が、現代は、何とふえていることでしょうか。

お寺参りをして、本尊様に手を合わせ、御先祖のおまいりをするだけでも心の転換ができるのです。

お彼岸にあたり、父母はもとより、数多の御先祖様から引き継がれた今の命に感謝し、深く思いを寄せて、自らを省みて、悔



いの無い人生の第一歩を踏み出したいものです。

一口伝導板

○我という

心の鬼が

募りなば

何とて

福は 内に入るべき



○つかの間も

一ときが

油断するな

千里の違いとなると思いて

私信

今年の十一月で私達も

金婚式を迎えます。

ただ、ただ与えられた仕事を必死にこなして、生



特別志納者の紹介

○為夫

菩提供養

金五拾萬円

長谷川聖子殿

○為妻

菩提供養

金七萬円

下田雅由殿

○為母

菩提供養

金八萬円

高橋光成殿

以上の方々より特別のお志をいただきました。御報告申し上げますと共に御礼申し上げます。

お寺から

○火曜日のお休みについて

葬式、法事、特別な法要、供養がある時は別ですが、基本的に、一般的な火曜日は事務員さんが不在なので、お寺の方は閉めさせていただきます。急ぎの御用事がおありの方は、玉宝寺（34-3247）が寺務所となっていますので、御連絡下さい。

きてきた感がします。

「師匠（父）の年まで生きられた。」

後の人生は、おまけみたいなものだ」と、

東堂さんはよく話しております。

玉宝寺住職を宗皓和尚に譲ったら、自分は中国に留学し、いろいろな寺院を参拝し、移り変わる中国の様子を体感し、素のままの人間、伸びようとするエネルギーを膚で感じる事が、自分の夢だと最後の計画を口にしていたものの、総世寺さまとの御縁で、やりたいこと、やるべきこと、そしてやらねばならぬことと出会い、そのおまけの人生を、今では元気に、いきいきとやり通そうとしております。東堂さんが、残された人生を、新しい世界を開拓しながら、精一杯生きると誓った以上、私も縁の下の支えとなれるよう微力ながら、頑張ろうと、改めて思っています。（安藤百合子）

○新旧役員さん交替

三月七日（土）この一年お世話になった旧役員さんと四月より一年間お世話になる新役員さんの顔合わせ会がありました。

今年の大きな活動状況の一ツに、昨年の台風で破損状況が激しかった蔵を壊して新しい倉庫を造り、そちらに永く保存できるように、お寺の宝物を移す予定でいます。それに合わせ、第二回の宝物展開催も計画中です。平成二十八年の十一月に第一回の宝物展をしました。その際、朝日新聞やポスト誌などの掲載効果もあつて、三日間の開催期間中、おおよそ千名余の人々が観覧にみえました。

新役員さんには、その際のお手伝い等をおねがいすると思えます。よろしくお願ひします。そして旧役員さん、一年間、ありがとうございました。







